

史料 「大正九年度 女学校日誌」 二

木 瀬 智 子
江 原 絢 子

智子 木瀬 絢子 江原

本史料は、第一報において解説したとおり、私立成蹊女学校の学級日誌で、和綴じの日誌に生徒が交代で墨書したものである。大正九年四月から翌年三月まで、毎日の学校生活を綴ったもので、「女学校」から「高等女学校」となる前年の日誌として貴重なものである。前回は、四月から六月までを翻刻したので、今回は、第二報として七月から十月までを翻刻し史料とする。中扉には「大正九年度女学校日誌 卯月 皇月水無月之巻」とある。本史料は、現在筆者個人が所蔵している。

一八九一（明治二四）年の中学校令中改正によって「女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ施ス所ニシテ尋常中学校ノ種類トス」として学校体系に位置づけられた高等女学校は、一八九九（明治三二）年の高等女学校令により女子の高等普通教育機関として制度化された。

高等女学校が制度化された一九〇〇年代はじめには、同校への進学者の多くは、中、上流階層の娘であった。しかし、一九一〇年代には、農村部を含むより広い層の進学者が急速に増加した。その結果、

一八九九年には全国で九千人に満たなかった生徒数が一九一〇年には五万六千人となり、さらに一九二〇年には十一万六千人となった。（江原絢子『高等女学校における食物教育の形成と展開』）
成蹊女学校も、この日誌が書かれた一九二〇（大正九）年には、高等女学校昇格への申請をしており、日誌の中にも来年から高等女学校となる旨の記述がみられる。

一九二一年の「諸調査」によれば、新設の成蹊高等女学校は、生徒一〇〇人の定員に対して六七人の生徒数である。東京の高等女学校は前年の三〇校から二一（大正十）年には三四校と増加している。

しかし、この頃同時に高等女学校の教育、とりわけ家事科教育に批判も出されている。理論中心で実生活に役立たない教育だという批判である。このような中で成蹊女学校の教育がどのような展開をみせるのか興味深い。

七月一日 木 晴

大分暑くなつて来ました。箱根へ行く皆のお荷物が沢山参りました。図書室はお荷物で一ぱいです。今からお荷物をあける時が楽しみです。四年生の大部分の人は、改良服を自分で縫ひます。今朝からミシンが大繁昌です。桑の葉が青々と繁つて大層心持がよく、畑のじゃが芋や玉黍蜀(トウモロコシ)は日一日と丈高く成つて参ります。

七月二日 金 晴

箱根のお荷物は夫々揃ひました。朝の二時間目から運送屋が来て、荷作り致しました。作業服をかける所が出来ました。国語室の前のお池に水蓮の花が獨笑みをもらして居ります。垣内先生はおみえになりませんでした。弓の先生も。帰りの唱歌は夏の興と夕の鐘と我国兵士の三つでした。

七月三日 土 晴

中村先生のお病氣中吟が揭示されました。
やみふして またしもくひぬ いひもえぬ
実をしらて 過しき身は
今日もまた 降るかとかこつ 言の葉を

たへまなき 零しづくの音を 聞きながら 嬉しく聞きぬ 床にふす身は

ふとみれば ハツ手の茎に 青がへる まどろく程に 床に押れけり

うら仰ぐ 御空の様も 木も草も ものおもひげに 空を仰げる

いたづぎの 床は御山の 奥ならし 常にかはりて さやけかりけり

おくりむかふる 日をもわすれて
何事を なすともあかぬ 見なからに

やむ子等も 深くおもへと 御佛の
くるゝと聞けば たゞわびしくて

さやけくと いふ月影も 仰き得ぬ
むちにうたれて 床につきけむ

日の照るも 雨そぼふるも 月さすも
床のわびしさ 君おもひやれ

草枕 箱根の原に むすぶ子の
知らぬ観にて 長日へにけれり

雨な降りそ 風もなふきそ 子等の住む
荷物送りは 今日とこそ聞け

目もはゆる みどりの原ぞ なたかしき
箱根の山は とほに幸あれ

うれしくも 仰ぎけるかな 蚊帳ごしに
夢に問はゞや 床にふす身は

秋にもにたる 十六夜の月
箱根行のお荷物は一つ残らず發送されました。

七月五日 月曜日 晴

今日は朝自彊術はなくてこれからは午後唱歌の前にする事になった。凝念法の後お話がありました。それは中村先生御病氣がおなほりになるやうに陀羅尼を唱へると言ふおはなしでした。そして精神的に御看護申上げる事になりました。朝一・二年の方達はお池の水かへをなさいました。午後三四年の人がお茶を作りました。かへりに自彊術をしましたが、朝よりすゞしくて気持のよいやうです。

七月六日 火 晴

御ひる御飯後に奥田先生からお話を伺ひました。

今朝山内傳育官がお見えになって、地久節に真面目にその仕事をし
て一日を有益に送る学校もあるといふことを皇后陛下に奏上するやう
になるだらうと申されました。

そうなるかと私たちはほんとうに喜ばしい事であります。

昨日御案内なされた時御物領の御菓子をいたゞきました。

今度高等女学校の法則が改良されたから、此のよい令によつて女学
校も高等女学校にしていたゞきます。

此の三つの御話がありました。御菓子はかへりに頂いてかへりまし
た。

七月七日

朝の凝念の後、十時迄旅行中によその方がいらつしやつても差支へ
のない様に奇麗にお掃除を致しました。十時少しすぎに講堂に集り終
業式、後旅行の注意として次の事を伺ひました。

一、四年は方丈記（三年へ）自然と人生（一年へ）三年は自然と
人生（一年へ）二年は自然と人生を忘れぬ事。

一、集会の時間に後れぬ事

一、宿屋でさわかぬ事

一、荷物は手軽に

一、忘れものをせぬ様に

一度目をつぶつてよく頭に入れ、十一時すぎに別れました。
私共の念ずる力がつよければ明日はきつといゞお天気となるでせう。

七月八日 木 晴

いよく今日は箱根旅行にゆく事になりました。

観音様の御利役でせう、よいお天気で御座いました。皆が品川駅にう
れしさうな顔をして集まったのは六時頃でした。

四年の大組の方に切符も買つて下さったので、プラットホームで汽車
の来るのを待つてゐた。七時汽車は品川に参りましたので二箱にのり
こみました。

今度の旅行は中村先生がいらつしやらないから淋しいと思ひました
が、でもお話をたくさん持つて帰つておきかせする事が出来ると思ふ
とうれしう御座いました。

三年の政子さんとたよ子さんがお送り下さいました。汽笛と共に東
京を後に箱根へ向ひました。下関行の真行でした。車中は私たちが座
すのにちつとも不自由では御座いませんでした。先生「こゝは何川」「知
りません」「馬入川です」「この川の上流は何川」などといふ会話がさ
れました。

右は山で左には深い溪川にある所などを通つて御殿場に着きました。
そしてお弁当を富士屋で頂きました。十一時頃みのかさに身をかため
て乙女峠へ向ひました。お荷物は自分で持てるだけのお荷物は自分で
持つて後はたのみました。そして四年を先頭に、一年、二年、三年と
いふ様に歩いて参りました。大分あつくて登るのには中々ほねかおれ
ました。中腹に参りました後をみますと富士山が高くそびへて居りま
した。ほんとうになつかしゆ御座いました。そして木隠で休みながら
参りました。御座を下に敷いて上を向いてねますと、日の光が葉にう
つゝて何ともいえぬよい気持で御座いました。

やつとの事で峠に着きました。奥田先生のいらつしやるまで皆お茶
を飲まずに待つて居りました。お茶は大そうおいしゆう御座いました。
少し小高い所へのぼつてみますと白く天幕かみえました。ほんとう

れしゆ御座いました。それから写真をうつして乙女峠を下り下の姥か茶屋でつめたいく、お水を一はい頂きました。上で先生が一杯より飲んではいけませんよとおっしゃったので皆一杯しかのみませんでした。仙郷楼へ着いたのは四時半頃でした。先づおちついて、そしてお茶とお菓子頂きました。お荷物をかたづけて着物に着換へお湯に入って御はんを頂きました。自分の持てるものだけは自分で持つて天幕へ帰りました。着いた頃はもうまつ暗でした。そして食堂に集り先生より今日は皆よく都合よくゆきませんでしたか、明日はちゃんとしみすから一まづねて下さいとおっしゃいましたので皆すぐお床に入りたのしい夢を結びました。

七月九日 金 晴曇雨

五時半起床、六時少し前から運動場の草取りを致しました。それで今朝だけは駄足を致しませんでした。草取がすんでから東に向つて黙祷をいたしました。それから各自の天幕にかへつてかたづけ物を致しました。今年は各自の天幕を最も便利に使へる様に工夫してよいので、どの天幕も大変よくかたづけられた様に思ひました。朝の御飯は二組に分れていたゝきました。昨日つかれたので今日は一日休養するためには時業はございませんでした。御食事後三十分程して中村先生にお送りするため天幕全景と生徒全体の写真をうつしました。それから三年と四年は又お茶室でうつしました。おひるまでに大部分の方は昨日汗になったものゝ洗濯をなさいました。おひるの御食事は皆一緒にいたゝきました。そして一時から十分間写真をとるために駄足を致しました。

それから三時までに河に入つても、又天幕で寝て居てもよい時間になりました。それで前から楽しみにして居た一つの水泳が出来るので

皆大変よろこんで早速はいりました。今日は三時から五時半までの間にお風呂呂りました。六時少しまへに夕飯をいたゝき、七時半から観音経をとなへて八時にお床に入りました。その頃には大部雨が強くなつて風が加はつて来たので心配して居りましたが、そのうちに梅さんが提灯を持つて廻つて来て下さいました。

七月十日 (土)

四時半起床、五時半から上の天幕で凝念をし観音経をよみました。朝の山は心が落ちついて、ほんとによい気持ちでございます。それから運動場で駄足があり東にむかつて黙祷致しました。

朝の御飯は昨日の通り二組にわかれていたゞきました。八時から四年は十八号天幕にて奥田先生より観音経のお講義、三年は十七号にて順子先生の鮎物のおはなし、一二年は大きい教室天幕で川上先生に自然と人生を習ひました。

それがすんでから他の組は自由、三年だけ奥田先生の方丈記のお講義がございました。お昼の御飯は皆一しよにおいしくいたゞきました。それから三四年はお茶、一二年は採集に出かけました。掛ものゝ代りにまわりの山々をのぞみ、風炉のかはりに火鉢、鉄びんを釜に見なして小川のさゝやきに心をすましながらするお茶はほんによい気持ちでございます。

お三時に四年の世話係のお造りになったやうかんをいたゞきました。久しぶりの甘いもので大そうおもしろ御座いました。雨が時々やんだり降つたりして風さへ加り天幕のもる所は大さわぎを致しました。五時頃各天幕に麦こしがしが配られました。上あごについたり、ふきとはしたりして方々の天幕から笑声がもれて居りました。夕飯がすんだ頃ひどい雨が降り出し天幕のもりを防ぐのに大さわぎでした。四年の大

組は十六号にひっこしました。夜になると雨風は一そう烈しくなりほんとの嵐になりました。何度も天幕内は雨もりで、私たちはその中で不安な一夜を過しました。奥田先生は夜中ひどい雨風をおかして各天幕を見まはって居られました。お体におさはりがなければよいがと心配でございます。ほんとに先生の御心づかひが思ひやられます。

七月拾一日 (月) あらし

昨日からつゝいて嵐は朝になつてもまたやみません。昨晚より一層ひとく天幕をゆりうごかしてゐます。

昨晚はずい分ひどい雨風にもかゝらずよく休んでいらつしやいました。朝の御はんはおむすびでした。

いつまでたつてもやみませんので、おひる頃仙郷楼へうつりました。天幕でこんな目に会つたのもいゝ経験です。昼食後村田先生のおはなしによれば五号と十四号天幕が、たはれたそうです。午後は自由でした。夕食後皆集つてお話を開きました。

奥田先生の昨晚の嵐についてのお話が御座居ました。

あんな大嵐にもさわがずよくねむつていたのは結構でしたと。

それから村田先生の面白いお話、次いで四年生が一人づゝ嵐の感想談を一人づゝし、三年以下は各天幕から一人総代になつてお話にふしました。大へん面白く終りました。最後に奥田先生の御馳走をいただきます。

それはおなかをわるくする心配もなく、又すきなものをすきなだけいくらでもいただきます。そして今日はおおそう御ざいますから明日になさいとおっしゃいました。皆様自分のほしいものをたくさんいたゞいて、うれしさうにしていらつしやいました。それから観音経を誦読しておやすみなさいを致しました。

七月十二日 月 晴後くもり

五時に起きました。暫く目で空が晴れました。それなので朝は駆足をいたしました。今までの所とはちがつて小さい石が沢山あります。一年の方はさぞぐと思ひました。終つて縁側に上りました時、きつとどなたもつくぐ板のやはらかい事が御わかりになったでせう。九時ころからテントにと集りました。そしてテントの中をかはかしたりフトンをほしたり致しました。おひるはこゝで頂きました。午後から芦の湖に行く筈でしたが、時々雨がふつて来ますのでそれはやめて茶話会をしました。二時の予定が三時過になりました。

茶話会次第

旅泊	一年全体	真の心	三年
余興	十四号	旧都	二年
夏の興	二年草村	人形屋(余興)	三号
笠の段	原	御経	村井
独唱	小野アイ	笹の段	桜井
たかね	二年	あらし	十五号
少女園	七号	旅の夜	四年
雷雨行	四年	余興	四年
羽衣	平松	たかさご	伊藤
合唱	宇川 今村		

四時半ころ終りました。それから私達四年の作つたお汁粉を頂きました。長屋峠から金時山に明日行くので、其用意をしてテントから宿にうつりました。夜四年は観音経の御話、三年は方丈記をなさいました。

七月十三日

いよく又天幕にかへることになりましたので、朝の御はん後各々

おにもつをかついで天幕にまいりました。一時間はかりふとんをほしたり荷物をかたすけたりして九時半から四年は観音経のお講義、三年は鉾物のお話が御座いました。

四年の観音経がすんでから三年は方丈記のお講義で御座いました。

お昼御はん後十二時半から有志の方々だけあしの湖に出かけました。向ふについてから三十分ぐらい写生などをして雷がなりはじめたので、大いそぎでかへってまいりました。

いらつしやらなかつた方々は白玉をこしらへてお持ちして居りました。みなさんがかへっていらつしやつてから白玉と岸井さんのお家からいたゞいたお菓子をいたゞきました。

外は又風かつよくなつてまいりました。それからお湯にいらつしやる方はいらつしやり、あとは自由で御座いました。

七月十五日 木 晴

朝の景色は大そうよろしうございました。予定より三十分早く五時半頃ごはんをいたゞきました。

出かける前に奥田先生から「今年はみんな一緒に下りませう。女学校では幾時間かゝれば下れるかはかつてみませう。急ぐ必要はありませんから、よく気をつけて参りませう」といふお話がありました。

仙郷楼によりお弁当を持つて七時少し前に出かけました。お天気がよいので、大そう暑うございました。

何時もの通り大平台のお茶屋で二十分ばかり休みました。村田先生と六人の方は宮ノ下から電車におのりになりました。二年の加藤さんはお内に急病人がおありになるので、先にお帰りになりました。

今村さんの御別荘まで丁度三時間かゝりました。例によりつめたいむぎ湯をいたゞきました。大そう嬉しうございました。お菓子も頂きま

した。お弁当をそこで開きました。お庭を拝見し十二時過ぎお暇致しました。

近藤先生が小田原から国府津駅までお見送り下さいました。

福島先生が湯本までお出で下さいました。

国府津で時間がありましたので、海岸で遊びました。

四時半過ぎ、無事に品川に着きました。品川には、中村先生の奥様をはじめ、四五人のお母様、お姉様が来ていらつしやいました。駅前で解散致しました。皆様は大急ぎで、各々家路に向はれました。

七月十七日 土 晴

たのしい旅行も名残なくすんで、今日は皆元気に登校致しました。

いつもの通りに凝念法をしました。それから各所持のお掃除を平常よりもていねいにしました。三年の方のお心づくしのお菓子とお茶で十時頃から茶話会が催されました。四年の人々からはじめて旅行の感想談がかわされました。その間に箱根で写した写真等も見せていただきました。色々とおもしろいお話が沢山ありました。最後にいらつしやらなかつた久子先生、福島先生等のお話もあつて会は閉じました。それがすんでから一学期の成績がくばられました。皆それを持つて家にかへりました。

七月十九日 月 晴

今日からほんとうに夏の学校になりました。凝念の後は奥田先生のお話が御座いました。

夏の学校中の宿題はちゃんとする事。そして宿題以上にするといふ位の意気込でする事。

おひるからの時間をうまく使つてする事。

此のお話がありました。中村先生からの手紙が掲示されました。

それは箱根で各テントから先生にさし上げましたお便りの御礼としてのお手紙でした。

箱根からのお荷物は午後参りました。

三時から駆足、四時少し前に自強術を致しました。した後は汗がみんな出てしまつて大そう気もちがよろしくございました。唱歌はありませんでした。御家へおかへりの時に箱根からのお荷物をもつておかへりになつた方もございました。

七月廿日

大抵の学校は今日からお休みで皆よろこんで居りますが、成蹊の生徒は修業をするのによい夏の学校になつた事をよろこんで居ります。宿題も可成りました。しかし皆はよろこんで、この夏中にきつと仕上げてしまはうと、もう手をつけました。ぶらくと暑いといひながらくらすのより汗をたらしながらせつせと働いた方がどれ程たのしいかしれません。

午前中は時間割通り、午後は皆自分くの仕事を一生涯に致しました。かけ足自強術きのふの通り。かけ足の時人数をしらべました。観世先生は旅行にいらつしやるので、この次から八月一杯おやすみださうでございます。お荷物をとりにいらつしやる方が時々みえました。

七月廿一日 水

今日は長刀の時園部先生と園子様と弟さんがいらつしやいました。そして皆様にお稽古をして頂きました。お昼の時には参観人の方も御はんを召上りました。御飯後奥田先生からお話が御座いました。

午後から有志の人は外へ出で草を取つて下さいとおつしやいました。そして中村先生がいらつしやるまでに学校をきれいにしておきませうとおつしやいました。午後から有志の人は草取りに出ました。木隠は

随分涼しく御座いました。

今日は駆足や自強術がなくて唱歌が御座いまして、荒城の月、雲、運艦、行進曲を致しました。

七月廿二日 木 晴一時雨

今朝凝念の時 一、観音経を唱える時には目を閉するか又は半眼にすること。二、四月に箱絵具を注文した方は早く買ふこと。三、図書室の荷物は早く持かへるか又は取りに来て居たゞること。この三つのお話がありました。それから図書室はお荷物はあつてもきれいにすみにつんで置いてお掃除をして早く皆が面白く楽しく本の読める様になければいけませんとおつしやいました。昨日草取りをしたので大部分がきれいになりました。今日は久しぶりでパンをいたゞき、又久しぶりでお琴の音を耳にしました。

七月廿三日 (金) 晴夕立あり

校内を入ると皆さんがうれしさうにして入らつしやるので何事かと思つて大いそぎで門に入ると、どなたかが「校長先生が入らつしやつた」と教しへて下さいました。教員室へ行くと先生は新聞をよんで入らつしやいました。久しぶりでやさしいお顔を拝見し、お言葉を伺つて私たちはそれはく喜びました。一年ほどお目にかゝらなかつた様な気が致します。凝念もして下さいました。先生が早く元通りの御健全なお体におなりになつて、毎日学校においで下さる時をたのしみにお待ちしながら念じて居ります。

お昼のおかずは学校でとれた茄子でございました。今日はわりに涼しくございました。水泳場に水を入れ始めて五六寸になつたので皆一っぱいになるのを待ちこがれて居ります。

七月二十四日 土 雨後晴

今日は大へんお暑うございました。

朝凝念の後で来週の特別講習のおはなしがございました。

午後は皆一生懸命に宿題のお裁縫をしていらつしやいます。又、すゝしいお二階で日記を書いていらつしやる方も御座居ます。

まだ先があるくと思ふとついくなまけて予定通り出来なくなるものですから、なる丈早く出来上らせ様とつとめませう。

七月廿六日 月 晴

いよく今日から特別講習が始ります。朝奥田先生から自分で工夫をする様にと云うお話を伺ひました。一二年は絞り染、三四年は袋物を致しました。そして今日は名刺いれを作りました。午後から始めてお目にかゝつた山下先生について、各々好きなものを粘土で作りました。出来上つた物は作業室のすみにならべられました。四時から自強術を致しました。帰りの唱歌はありませんでした。

七月二十七日 火

凝念後又一二年は家事室、三四年は講堂でしほりそめと袋物をはじめました。今日は楊子入と札入などで御座いました。十一時半からお掃除があり、午後からは粘土細工で御座いました。

山下先生は一寸いらつしやいましたが、おうちの御用でおかへりになりました。二時半ごろから中村先生もいらつしやつて、お茶わんなどおつくりになりました。四時から作業室をおそうじをして唱歌をしてかへりました。

七月廿八日 水 晴一時雷

凝念後午後一時から二時まで草取りとじゃがいも掘りを致しますとのお話が御座りました。

袋物はもう皆好き々な物を作つていらつしやいます。

一二年の方はしほりぞめを沢山して綺麗な色に染めて、それをほどこいて見るのを皆よるこんでいらつしやるのです……。午後からじゃがいもを掘りました。バケツに十杯位取れたでせう。それから草取り大勢でしましたので、すぐ取れてしまひました。取れてしまつてから涼しい夏も忘れてしまふやうに木陰で草を取りながら涼みました。寄宿舍の方々は寄宿の障子を洗ひました。

二時から自強術まで自由時間でした。三時半頃真黒な雲が出て来て雷が鳴り出しましたが、雨は降り出しませんでした。帰り唱歌は御座いました。

七月廿九日 木

凝念の後奥田先生からお話がありました。いとくづと下駄のぬぎ方についての御注意でございました。

袋物も今日は、四ツ襦、利休の入などおもひくの物をつくつていらつしやいました。特別講習も明後日一日きりございません。お食後、「かけ足のかはりに今日も草取を致ませう」とおつしやいました。

一時から草取りで後は自強術まで自習でした。水浴場に水が半分はいました。明後日はきつとはいる事が出来ませう。

七月卅日 金

明治天皇祭に付休課

七月卅一日 土

一週間の講習もいよく今日にて終り、一入身を入れて致しました。三四年の方も一二年の方もこの一週間できれいなものが沢山出来上りました。午後は一昨日のやうに一時間草取りあとは自習でした。今日はお池にお水は入つたのでお侍兼かみの水泳がはじまりました。

八月二日 月 晴

一週間の講習もすんで、これからまた一週間一生懸命にすることが出来ます（お休みまで）

お食後奥田先生から「今日もかけ足のかはりに草取りを致しませう。」とおっしゃいました。一時から草とりを致しました。草とりの後自彊術まで自習、お池へお入りになった方もございました。四時十五分過ぎから唱歌をしてかへりました。唱歌の後でちよつとお話ありがとうございました。「明日は岩崎さんのお誕生日で授業はありません。大ていおひる前に終わります。」

八月三日 火

今日は賛助員の岩崎男爵のお誕生日なので八時から式が御座いました。観音経、凝念、心力歌の後奥田先生のおはなしが御座いました。それから学校の中を心をこめてお掃除を致しました。

十時頃食堂に集り秋色女の講演があり、お菓子を頂き十一時ころわかれしました。

八月四日 水 曇後雨

凝念の時は講習会の方三人ばかりいらつしやいました。午後一年生の長刀の時間に二年がして、一年は御作法をして四年は二時頃うち水をして下さいとおっしゃいました。

午後から講習会の方が御見えになり、一年生の御作法を御覧になりました。二時頃雨が降りましたのでうち水を致しませんでした。

今日は長刀か御座いましたので駄足もなく自彊術も御座いませんでした。帰りの唱歌には岸の桜、夏の興、我国兵士を致しました。中村先生も御見えになりました。

八月五日 木 曇時々雨

今日はおひるから講習会の方に二年の練習手前を御覧に入れました。その後三四年がお薄茶とお菓子をいたしました。今日も駄足はなく自彊術だけで御座居ました。それから今日のお琴は明日になりましたので、明日のかはりに唱歌を致しました。夕の鐘と寄宿舎の古釣瓶と旅愁でございました。

八月六日 金 晴

朝凝念の時講習会の方たちが参観に入らつしやいました。観音経をよみながら久しぶりで行道を致しました。大内先生がいらつしやいましたので四年生は一時から号でございました。昨日の雨でお池の水が青くなりましたが、それでも元気な方は午後からおもしろさうに泳いで入らつしやいました。昨日の代りにお琴のおけいこがございました。

八月七日 (土)

講習会も今日きりで御致しますので、午後食堂で会員の方々の感想談の茶話会が開かれて居りました。余興として四年の佐伯さんのピアノがありました。今日は雨が終始ふつて居りますので水浴は出来ませんでした。お池の水も大へん青くなつて居ります。

かけ足も自彊術も唱歌も御座いませんでした。早くおかへりになりました。

八月九日 月 晴

朝凝念の終つた後で奥田先生から縁の下の力持のお話を伺ひました。又府民新聞の事に付いて

群がりて我をほむるも我が心はみだされず

集いて我をそしる民我が心は激する事安し

と心の力にある様に自分達は只正しい道を歩んで行く様にと云うお話

を伺ひました。それからお掃除をし、十時ころ講堂に集り八章をとなへて先生から好くく体を大切にと云うお話を伺つてこれから七日間御別をする事になりました。

八月十七日 火

一週間のおやすみも終つていよく今日から学校がはまりました。皆さんはこくくして、方々にいらつしやつたおみやげ話をしていらつしやいました。

凝念の時には中村先生がいらつしやつて下さいました。

これからもなほ水などもあんまりのまない様に気をつけなければいけないといふおはなしがあり、それから校内のおそうじにかゝりました。おひる前に二三年生の唱歌が御座いました。おひるのお食事は久しぶりで中村先生と御一所で御座いました。お食事後四年生は弓をいりました。まことにあたつた方はお二方だけで御座いました。

一時から四年の唱歌が御座いました。

三時ころから茶話会がはじまりまして、しやかいものしほゆでをいたゞきながら、皆さんの一週間の間いらつしやつたところの感想などをうかゞいまして、四時すぎに各々帰路につきました。

八月十八日 水 晴一時雨

凝念は中村先生がいらつしやつて下さいました。

丁度凝念の最中奥田先生、順子先生が秋田からお帰へりになりました。「おかへりなさいませ」と御挨拶申上げました。園部先生がお休みでしたのでいつもの水曜日の作業室としてはひつそりとして居りました。久しぶりで駄足が御座居ました。自彊術もありました。食後奥田先生から秋田のお土産話を伺ひました。お池に綺麗な水が汲まれて見るからに涼しそうです。明日頃からおよげそうです。ぼつ

りく降つて居た雨も、くまなく晴れてしまひました。

八月十九日 木 雨

今朝の凝念は奥田先生でした。

御昼前に台湾の小学校の先生や他三四人の方が参観に御みえになりました。お食事も御一しよにいたゞきました。順子先生も大分よく御なり遊ばしたので、四年の人が近藤先生より教はつた御粥を作り食堂で御一しよにいたゞきました。奥田先生のお粥も作らせていたゞきました。

お池の水が四尺近くは入りました。畑にはダリヤが美しく咲き、赤茄子が見事に実を結んで居ります。自彊術の間にひどく降つて居た雨は小降になりました。帰りの唱歌は御ざいませでした。

八月二十日 金

お食後、久子先生から七夕祭りを旧曆にするお約束でしたが、いろく都合ではない事になつたといふお話がありました。お池の水は一尺ばかりへりました。午後一二年の方々は面白そうにおよいでいらつしやいました。かけ足はございました。

四時頃講堂にあつまりました。奥田先生のお母様が御病気で、あいたいとおっしゃるので、一週間ばかりお国の方へいらつしやるそうです。先生方のおっしゃる事をよくきゝ、中村先生に御心配をかける様になさいとおっしゃいました。

奥田先生の御心はどんなでせう。先生はすぐお帰りにになりました。皆様で一日も早く御全快なさる様に念じませう。

八月二十一日 土

今朝凝念法は久子先生で御座いました。

午前中四年生は看護学のおけいこがありました。午後お池が大へん

にぎやかでした。今日は三年生も大分おは入りになったやうでした。奥田先生ももう今頃はお国におつきになって、お母様のお看護に一生懸命でいらっしやいませう。私共もおるす中はなまけず勉強して先生の安心してかへっていらっしやるのをお待ちませう。 終り

八月廿三日 月 晴

凝念の時、久子先生からお話が御座いました。

此頃かけ足と自彊術に出る人が少なくなりましたが、からだに故障のない人はでなくてはいけません。夏に出ないでなまけて居ると冬になつても出来なくなつて心や身体を鍛錬することが出来ません。そして上級生は下級生をつれてゐつてあげるやうにしなければいけません。こういうおはなしでございました。

かけ足も自彊術もございました。毎日みなさんは午後お池に入つていらっしやいます。帰りの唱歌をしてかへりました。今日おひるから中村先生がお見えになりました。

八月廿四日 火

今朝は中村先生の凝念でございました。凝念の後で御話が御座いました。それはきまつていらっしやる先生がお休みですから、先生が御休みでも先生がいらっしやる気持で自習時間をむだに使はず、先生がいらっしやる時よりもつとそれ以上の事ができる様にする事。夏の学校ももうをはりに近づいてきましたから、だれない様にする事。物は事は終りに近づくとだれやすいものですから、運動をよくして身体を丈夫にする事。三四年になるとおちついてしましますから特に。といふお話でした。

午後久しぶりで多田先生がいらっしやつて下さいまして、一二年三四年と一時間目と二時間目に致しました。

駆足はありませんでした。自彊術は四年の野口さん。昨日から四年生が変わりに先生の変わりになる事になりました。かへりに食堂で今日の収穫物「とうもろこし二本、赤茄子二つ」を頂いてかへりました。唱歌はいつもの通り。明日は岩崎先生の御誕生日で式、明後日は多摩川へ参る事になりました。

八月廿五日 水 晴

今日は、賛助員の岩崎彌男爵のお誕生日で御座いました。そして、朝いつもの時間に学校へ集り岩崎様の御健康を祈り世の中の為に御つくし下さる様に祈りました。九時より小学校へ参りまして一緒に講話をききました。面白い御はなしで御腹の皮がよれそうでした。小瀬先生から玉川へ明日行く筈でしたけれども、水がましたから羽田になりました。そして八ツ山の停車場へ集る事をおはしになりました。帰りは体重をはかつて帰りました。小学校で中村先生にお会いしました。女学校へ帰つてお菓子を頂いて各々家路につきました。残暑とは云ひながら今日は中々暑う御座いました。

八月二十六日 木 くもり

八時までには各級大方そろひました。今日は小学校の方も御一緒なのでステーションの前は人の山でした。生憎今日は曇つて居るので電車の中はさむい程でした。

水泳場はやはりいつもの家でした。思ひくおよぎたい丈およぎ、一度御池のまはりを駆けて又入りました。貝をひろいにいらっしやつた方も御座居ます。

午後キャラメルを一箱づつ頂きました。午後からも自由に泳ぎました。二時半ころ穴守のステーションに参りました。

品川に着きましたのは丁度三時半でした。そこで解散致しました。

八月二十七日 金 晴

昨日一日で皆さんは大部よい色におなりになりました。夏の学校も
うのこり少なくなりましたので、自習時間はお裁縫室と控室はいつ
でも満員です。今日は雨がふらなかつた。あかしんし張をなさつた方
が沢山ございました。

三日程かけ足と自彊術を致しませんでしたので、今日は久しぶりに
する様な気が致しました。二三日あめがふつてお池の水がにごりまし
たから、今日はとなたもおはいりになりませんでした。

八月二十八日 土 曇雨

今日午後奥田先生からお葉書が参りました。お母様の御病気も御快
方に向はれたとのことございました。今日四年生のお会席のお支度
は全部電気でした、見ましたら大変時間が早かつたさうで又大変おい
しうございました。今日は三年生だけ午後園藝でございました。駆足
も自彊術もございました。かへりの唱歌は夕の鐘、荒城の月、夏の興
でございました。

八月三十日 (月) 晴

校長先生の返子からの御たよりが掲示板に張り出してございました。
何処へいらつしやつても、こうして女学校に御たより下さるのかと思
ふとうれしう御座います。

お茶室の前に井戸を掘つて居ておもしろい言葉でつなを引いてゐる
のが一日聞えて居りました。

今日は暑うございましたが、お池の水が青くなつてはいれ
ないので元気な皆様はさぞ物足りなくお思ひになつた事でせう。

九月一日

今日からいよく九月に入りました。これからはおひくすゞしく

なる事で御座いませう。

四年生がおさいほうの時女物本裁単衣か何分かゝるかはかりな
らこしらへました。

今日は久しぶりで長刀が御座いました。午後からは実践の先生もい
らつしやつておしへて下さいました。

九月二日

今日午後からトマトソースを三四年の一部の方がつくつて下さいま
した。その時煮えたソースか四年の佐伯さんの足にかゝつてやけどを
なさいました。かけ足は御座いませんですが、自彊術はございました。

九月三日

三四年の国語は垣内先生が御病気なので御座いませんでした。
午後から山下先生かいらつしやつて下さいましたので、素やきになつ
てきた粘土細工に画をかいてやいていたゞきました。下手でも出来上
るとうれしゆう御座いました。かへりは唱歌だけで御座いました。

九月四日 (土) 曇雨

今日は四年生は看護学の日で御座いますが、先生がいらつしやいま
せんでしたのでいつもの通りでした。一日雨がふつて居ります。時々
やみますが又すぐ降りだします。駆足の時間には丁度止みましたので
いたしました。

お茶室の前にはさるすべりが今を盛りと咲きみだれて居ます。はら
くと紅い花がちつて、はいてもく池の上には盡きません。緑の中
に紅い花のあるのも美しい御座居ます。

九月六日 月 晴

一年生が毎日熱心にお蚕を養つてゐらつしやるお蚕が一眠して起き
ました。これから一眠することによく大きく成つてゆきます。どん

なに楽しみな事です。午後一年生は園芸、四年生の一部分の人は枯はてた玉蜀黍をのこらず取ってしまひました。中村先生が逗子からお帰へりになつて女学校へいらつしやいました。

九月七日 火 晴

朝は中村先生の凝念の筈であつたけれども、おみえにならないので久子先生でした。お蚕が段々と大きく成つて参ります。三年生の方は一生懸命ひまさへあれば、張り物をしていらつしやいます。珠算のよみ手は後藤さんでした。お昼のお菜は蒟蒻と玉いんげんでした。午後の駆足は順子先生が先頭で随分早くかけたので、いつも苦しくない十分が大そう長う御ざいました。帰りの唱歌はなし。

九月八日 水 晴

何時か〜とお帰りをまつてゐた、奥田先生は今日お見えになりました。皆様は何となくニコ〜していらつしやいました。

凝念法の後でお話がありました。お母様の御病氣もだん〜によくおなりになり、二三日前に歩行もなつたそうです。

お昼はそうめんです。お食後奥田先生がおみやげ話に、お感じになつた事をお話して下さいました。作業室からは勇しいかけ声が聞えてきます。かけ足はございました。自彊術はお休みでした。

帰りの唱歌は夕の鐘、故郷回想、雲を致しました。

九月九日

だん〜と夏の学校の終りも近づいて来たので、皆さん宿題を一生懸命になさつていらつしやいます。どうにか十三日の日には全校そろつて皆出来るやうに努力いたしませう。一年生の方のお世話していらつしやるお蚕も大分大きくなりました。今日も又きつときれいな心のこもつた糸が出来る事です。

午後、三四年は久しぶりにお割烹がありました。

九月十日 金 雨

だん〜と涼しいのを通りこして今日あたりは少し寒う御座います。かけ足は御座いませんでした。かへりの唱歌は夕暮れ、懐故郷、箱根八里でした。此の夏の学校も残り三日となつてしまひました。

九月十一日 土

四年生は久しぶりで教育がございました。別にかわつたことは御座いませんでした。夏の学校もお稽古は今日のみとなりました。皆夏の宿題をそれまでに仕上げやうと一生懸命でございます。

明後日は例年の通り一日働きます。

九月十三日 月

今日は乃木会です。朝凝念の後で各級の受持場所をきめて下さいました。今日は外まわりの掃除です。皆一生懸命に働きました。おひるにはもう大分きれいになりました。お食事の時久子先生に今日のおかずが皆おなすのわけを伺ひました。午後のお掃除の割当は四年生が致しました。午前ののこりの場所、桑畑を致しました。三時に終つた時には方々がきれいになつてうれしう御座いました。食堂に集りお菓子を頂き奥田先生から乃木大将のおはなしを伺ひました。それからわかれました。今日は一日はたらいで、かへる時には何ともいへずうれしうございました。畑の間をとほつても草がとれてきもちがよう御座います。

一年の方々がかつていらつしやるお蚕も今日は四眠です。皆さんは昨日からおとまりになつて（最小生活の間に）一生懸命におせわをしていらつしやいます。

明後日の次はもう二学期でございます。一生懸命に勉強いたしませう。

九月十六日 木 晴

やかましく鳴いて居る蟬の声も日増しにおとろへて秋はいよく深くなりしました。

そして今日からは二学期になりました。凝念の時奥田先生から勉強するのにはよい時で他の学校では二学期になると又初めなければならぬかと困って居ますけれども私等は前のつゞきの通り一生懸命でやる様にといふ御話がありました。

帰りには都合のよい方だけ自彊術を致しました。今日からは又スバツクマン先生もお見えになった様でした。皆さんか重さうに夏の学校の宿題の家事や御裁縫を持っていらつしやるのは重さうでしたけれども、うれしさうに思えました。

九月十七日 金 晴

今日から図画は図案の模写をする様になりました。垣内先生は今日もお見えになりませんでしたので自習を致しました。かへりの唱歌は勇氣、荒城の月でございました。

今朝凝念の後十二月までは自彊術は今までの通り四時十分前から。十二月一日からは朝にすると云ふお話と、これからはお掃除の前に運針と珠算と一日おきに両方すると云ふお話がございました。

九月十八日 土 晴

四年生は近藤先生がお見えになりませんでしたので教育を致しませんでした。今日は園芸が一番おはりで後のかだづけや色々なことでおそくなりましたから唱歌はございませんでした。来週から時間割が変更されました。

九月廿日 月 晴

今日からスバツクマン先生の英語会話を三四年一緒にする事になり、

三時間目に数学室で致しました。久しぶりなので何だか変でございました。四年生は二時間目の家事と六時間目の園芸を頂いて、らく焼を致しました。山下さんのお母様も来て下さいました。

今週から月曜は一年、木曜が二年でお昼のお支度をする事に定まり、今日は一年生のはじめてのお料理をいただきましたが大へんおいしう御座いました。

帰りの唱歌の時「三つの舟」と云ふ三部のを習ひ、始めを少し合せました。

九月廿一日 火 晴

今日は朝のうちは御仕舞がありました。午後から三年の弓と四年の唱歌が入れかまりました。そして私達は明日お母様方にお見せするのの御禮古をしました。

今日のらく焼は三年の方でありました。四時廿分に食堂に集り明日の御話を伺ひました。明日午前中は校内のお掃除をして、午後から一年のお客様ごっこ、二年の手前練習、三年の長刀、四年の弓とピアノ二曲許りをお母様方に見て頂き、夏の学校中に出来たものも見て頂きますから、明日忘れない様にといふ御話と改良服を着て働く様にと云ふ御話を伺ひました。

明日もしお天気がよくて先生の御氣持が好ければ御いで下さると云ふ中村先生からのお便りの御話も伺ひました。

九月廿二日 (水) 晴

お天気がよくてお母様方がいらつしやって下さるのには結構な日です。御座居りました。

いつもの時間から凝念をして、終るとすぐにお掃除を致しました。各受持ちの場所を一通りしてから四年生が考へて、特に念を入れなけ

ればならぬところを人を割りあててしていたゞき、十一時までにはすませました。二階二室には成績品を陳列致しました。十一時にお食事をしました。校長先生がいらつしやいました。そして食後に久しぶりでお話をして下さいました。

一時から四年生の弓、三年生の薙刀二年生の手前練習、一年生のお客様ごつごがありました。お母様方も三十人程いらつしやって下さいました。お目にかける行事がすんでから父兄の方々に食堂でお茶菓をさし上げ、奥田先生、中村先生のおはなしがありました。四年の佐伯さんと中村さん、三年の野田さんのピアノが余興として御ざいました。そして成績品を御らんになつておかへりになりました。私たちも、いらつしやったお母様方と御一しよにおかへりに致しました。今年はず年より陳列が美しい御座居ました。材料も昨年にくらへて大へん豊富で御座居ました。

九月二十四日 金

凝念の時奥田先生が、このごろ凝念におくれてくる方が多いから、明日からはじまるかねがなつてからきた順にならびませう。心をねるための凝念ですからとおつしやいました。

三四年の国語は垣内先生が久しぶりでいらつしやいましたのでつゞきを致しました。

四年の弓の時いろく注意をして下さいましたので、みんな氣をつけて致しましたので割合によくあたりました。かへり唱歌の後で先日の慰労休暇の時先生方はおかいこなどでおやすみになれませんでしたから、明日午後からおやすみにいたしますからといふおはなしが御座いました。

九月二十五日 土

今日の凝念に行くのは、おすなくで大さわぎでございました。午前中おけいこが御座いまして、かへり奥田先生から顔のおはなしが御座いまして、おかへりになりました。

四年生はお懐石をしてからかへりました。

このごろ又お二階を歩く時や階段の上り下りがやかましくなつた様に思はれます。皆さんで氣をつけませう。

九月二十七日 月 曇

お蚕ももう大方繭を作り始めて居ります。このやうになるとほんとうに楽しみなものです。

食後奥田先生から豆子のお土産話をして下さいました。友達と仲良くする事。級から友達をはね出さぬ事。もしはね出したとしたら級の恥辱と思へ。和に付いてのお話、午後三時間目は三四年園芸、三年は花の種蒔、四年は草取りと大根の手入れ、帰りの唱歌は三つの舟三部合せました。氷川神社のお祭りで目白の通りはにぎやかでありました。

九月廿八日 火

お仕舞は午前中に御ざいました。お昼に校長先生が御みえになり、御一しよに御飯をいただきました。

御菜は鯖と伊藤和子さんのお宅から戴いた大坂のころゝこぶとで御ざいました。自彊術はございましたが、唱歌はなし。

九月廿九日 水

来月から英語をお教へ下さる中村千代子先生がお見えになりました。凝念の後で御挨拶致しました。二時間目頃から雨が降り出しました。これからは一雨毎に寒さが増すのでございませう。

今日は長刀がございましたので自彊術はお休みでした。帰りの唱歌

は植生の庭、旅愁、我国兵士の三つでした。

九月廿日 木

此の間二学期になつたばかりのやうに思われますか、もう九月も終りです。

凝念法の後で明朝午前〇時に行はれる国勢調査のお話が御座るました。一時間目にも三年生の臨時国語があるはずでしたが、先生がいらつしやらないでありませんでした。

今日は又雨降りて二階の教室両方とも雨もりで大へんです。お琴があるので唱歌はありませんでしたが、私共がかへる頃には大へんな降りでした。

十月一日

昨夜のあれで電車で通学する人は大方後れました。一時間目は臨時全校のお掃除をしました。学校では大分方々雨もりでお裁縫室等は畳を上げてほしました。

お昼お食事の時お客様がお三方お見えになりました。

お帰りの唱歌は懐故郷、故郷、寄宿舎の古釣瓶をしました。

十月二日 土 晴

凝念の後で奥田先生からお話がありました。

凝念に来るのが大体に早くなりまして大そう嬉しう御座います。来週からはもとの順にならび、此の気もちに服して致しませう。

此の間からたのしみにして居りました繭は今日まぶしから取りさられました。かへりの唱歌は御座いませんで、二年の石崎さんからいたゞきましたおせんべいをいたゞきました。

この時奥田先生から旅行の事に就いてお話がございました。

今月の十一二三日（来々週の月水火）に日光の方へ参ります。月曜

日に御通知をさし上げるつもりですが、予めお話をして置きます。それから今月の末か来週の上旬に四年生は卒業旅行に関西の方へ参りますから、お家に伊勢、奈良、神戸、大阪などの書いたものがございましてら拝借を願ひまして四年生が調べ、それをもつて行かうと思つて居りますから、お家へどうぞおつしやつて下さいませんか。さやうならすぐみなさんはお家へと向はれました。

十月四日 月

凝念は今日から前の通りに成りました。

帰りの唱歌は渡辺先生に「三つの舟」を教えて頂きました。今日、日光旅行のお通知を頂きました。四年は関西旅行のも。時間割が少し変りました。

十月五日 火

昨夜は可成ひどくふりましたが、学校には別に何とも御座いませんでした。今日のお仕舞は午後から時間割通りに御座いました。

自彊術の後で話しがありました。

自彊術はこれから毎日致します。

おひるの時間には遊ぶ事。

学校の柿の実も大方赤くなりました。

十月六日 水 曇

今朝は凝念の時お話が御座いました。それはお掃除の時もつと早く御話をしてゐないでする事。

御不浄のお草履か乱れましたら気をつける事。御仕舞の時着物は後でぬぐ事（授業が終つてから）次の時間にすぐ行く事。

自分の品物には名前を書く事。そして忘れたらつけておいて、又忘れ物をした時はつけておく事。それは級当番に願ひしますとおつし

やいました。

中村先生からタイプライターで御手紙を頂きました。昨日張られた日光の地図の隣には関西の地図が張られました。

帰りには赤くなった柿の実を二つづゝ頂いて帰りました。

十月七日 木 雨

明日から鬼子母神のお会式が始まるので学校の辺りは何となくにぎやかでした。 雨

今日はお琴があるので唱歌はごさいませんで、三年以下の自彊術たけごさいました。四年生はお割烹がおそくなったので校内を出たのは五時すぎでした。かへりには少し夕焼がして居りました。

十月八日 金 晴

午後二時から中学校へ体重をはかりに参りました。一年から順々にやり、一年の方たちだけ中村千代子先生とさきにお帰りになりました。授業は一時間だけぬけました。おかへりの少し前に児玉先生から四年、三年、一、二年の順でおはなしがございました。それは此の頃学園附近に不良少年がたくさんに居ていたづらをするので、やられる人を調べて色々な事をお聞きになりました。かなりたくさんあつた様でございます。そんな事を考へると私たちは何処へ行くにもよほど気をひきしめて居なければならぬと思ひます。唱歌はごさいませんでした。

十月九日 土 晴

明後日から三日間日光旅行で今日は一二年の方々はなんとなくうれしさうにしていらつしやいました。かへりもいそぐとおかへりになりました。先生方は久子先生の他皆様いらつしやいます。

おひる頃校長先生が一寸いらつしやいましたが、すぐおかへりになりました。

皆様の旅行中四年生は久子先生の御指導で関西旅行の予備知識をうらためその地方の地理歴史をしらべることになりました。

唱歌は岸の桜と荒城の月、オーターローをしました。

十月十五日 金 晴

四五日皆様にお逢ひしなかつたのですが、一月もおわかれして居た様な気がいたします。

午後三時ころから茶話会が御さいました。そして面白かつた秋の日光のお話を聞かせて頂きました。

本当に行かなかつた私達も行つた様な心持になりました。惜しい事に先生方と研究科の方のは伺う事が出来ませんでした。四時半ころ終りました。長さんのお母様がおいで下さいました。

十月十六日 土

今日は中村先生がいらつしやつて下さいましたので、久しぶりて中村先生の凝念でございました。四年生は朝から教育やお茶家事等をいただきまして旅行の地理をしらべました。日程が少しかわりまして、和歌の浦と高野山と吉野山はあまり見るところはかり多いので行かずに奈良と京都をよくみてくることになりました。

おひるはお懐石だけいたしました。今日から四時から自彊術で十五分から唱歌をすることになりました。

拾月十八日 月 晴

秋雨も気持よくはれて暖い日でありました。順子先生がいらつしやらなかつたので四年生は関西旅行のしらべものを致しました。先生は十一時頃いらつしやりました。午後から講堂で三十分程先生方上級生、四年生等は鈴木先生に伊勢神宮に参つて参拝する時の礼儀及びお話を伺ひ後実際の稽古を致しました。帰へりの唱歌(三つの舟)始から終

まで三部合せました。少しおそく成りましたので、急で家路に向ひました。

十月十九日 火 晴

久しぶりで凝念法の時行道を致しました。

お昼のごはんは松茸御飯で大そうおいしかったです。中村先生もめし上りました。そして、食後、日光から先生の所に来たお葉書をよんで下さいました。あまりお上手なのでみんな驚いてしまひました。はじめにおよみになつた二つは、一年と三年の比較的いゝので、後は中村先生が、みんなの葉書で、こうもあつたらうとお考へになり今朝一寸お書きになつたのだそうです。味のある手紙を書く様に、今度一生懸命にかんがへて、もつといゝのをかくつもりですとおっしゃいました。

十月二十日 水 晴

今までにぎやかだつた鬼子母神のお祭りも二三日前で終つてしまつて急にさびしくなりました。コスモスももう盛を過ぎて散り初めて参りました。四年生は今関西旅行のしらべものを一生懸命にして居ります。

午後から中村先生がお見えになりました。すぐお帰りになりました。帰りの唱歌は夕暮れ、別れ、奈良都でした。

十月廿一日 木 雨

今日は一日雨かふつてじめくしてゐました。凝念の時の集り方がまたおそくなりだした様に思ひます。おことは石川先生でした。今日は雨のせいかな、うすぐらくなりました。

十月廿二日 金 雨

朝少しの間晴れて居たかと思つたら又雨が降つて来た。学校は所々

雨もりで大変でした。午後四年、二年、三年、一年と云う順に松田写真館に写真をとりに行きました。一枚に四人でうつしました。

帰りの唱歌の時、漁火、我国兵士、海楼眺望をしました。

十月廿三日 土 晴

今日久しぶりで近藤先生がお出になりましたので四年生は看護学がございました。おひるのお食事後中村先生が一時時間百哩顔のお話をして下さいました。それから学校に居る間は始終快活な顔をして居た方が善いとおっしゃいました。

かへりの唱歌は雲、菩提樹、故郷の廃家を致しました。

十月廿五日 月 晴

咲きほこつたコスモスもたんぐくと散り初めました。落葉の数も日毎にしげくなつて淋しげな秋の景色に入あはれをそへて居ります。何のかのと云つて居る間もう秋も半ばになつてしまつたのです。

凝念の後でかへりの時間が三十分早くなつた事の御話があり、今日からさうなりました。唱歌は三つの舟をして中々出来ずこまりました。家路に急ぐ頃十四日の月が夕空にうつすらとゆめの様に顔をみせて居りました。

十月廿六日(火) 晴

秋晴の好天氣で御座居ました。空は青く高く澄んで、白い雲がういて居りました。凝念の時行道を致しました。観音経をよむ皆様のおこゑが秋の気のやうに澄んで、ほんとにいゝ気持ちでした。昼食後、明治神宮祭にうたう唱歌を練習致しました。そしてかへりに唱歌を致しませんでした。

此頃寒くなつたせいか改良服を着る人が少なくなつて着物の方が多様な気がいたします。特に上級の方に着物が多いやうです。

十月廿七日 水 雨

秋晴の昨日は夢の後の様に今朝は秋雨が窓の外に淋しそうに降って居りました。昨日から凝念の時に心の力がすんでから体が暖かくなる様に少し凝念をする様になりました。長刀が御座居ました。四年生はずっと旅行の下しらべをするのに時間を頂きました。

暫く目でおうどんでした。自彊術は講堂で桜井さんが先生のかほりをして下さいました。

帰りの唱歌は明治神宮祭の時のうたのお稽古をいたしました。雨は中々やみそうもありませんでした。

十月二十八日 木

凝念の後三十分ばかり中村先生のこれから各学校の主事の先生がその学校の校長先生におなりになるといふおはなしが御座いました。女学校は奥田先生でございます。それから天長節には一度だけ五時半までにあつまる事になりました。

三四年は赤堀先生がおやすみなので、お割烹はございませんでした。

十月廿九日 金 曇り

秋の遠足で各学校の生徒は毎日武蔵野駅はにぎやかです。

此頃久しぶりて図画の時教外先生に出かけました。青々にしげりし草木が紅葉してそれも猶しほみてあはれな様になりました。午後二時から中学運動場の三十一日宝珠礼拝の時の並び方の稽古を大久保先生の御指導のもとに致しました。当日謹慎した態度で式をすること。授業服に作業服を着けて来ること。のお話がありました。帰りの唱歌の後お通知をいただきました。

十月三十日 土 晴

今日は教育勅語下賜三十年記念の式がございました。

式は八時から女学校の講堂で挙行されました。

式次

一、凝念 一、勅語奉読

一、訓話 一、心力歌第八章

一、普門品偈 一、園長御壯健黙禱

式後、記念品（記念繪葉書。教育勅語を奉じてよめる歌）をいただきました。下賜三十年記念の為。将来の志望に対する感想。家庭の状況、長所、短所、その他種々を書きました。教育勅語を謹写し十一時過ぎに帰りました。明日はおくれない様に致しませう。

十月卅一日

今年は特別に五時半に楠銅像前に集り、そこから全校で一体をつかって宮城前に向ひました。黙禱を致しまして式が終了しました。すぐそこで解散になりました。

原文にできるだけ忠実に記したが、読みやすいように句読点を適当につけ、また漢字は原則として新字体によった。また、当番の生徒名は削除した。

(二〇〇六・三八受付 二〇〇六・五十七受理)

家政学部家政学科

